

☆お知らせ☆

①英語多読キャンペーン継続中☆

〈 期間：～6/30 〉

多読リーディングマラソン  
4219語を読み切ろう!

\*24頁×5冊程度でも達成可能(読書量約40分)

易しいレベルからスタートしてみよう!  
はじめるなら、今がチャンス!



☆完走者特典!☆  
輸入菓子(米国)  
"CROWN Fun Pop"  
ポップコーン 99g  
抽選で10名に進呈

②雑誌のリクエスト受付中



雑誌のイトコ

★編集方針がしっかりしてる!  
★ボリュームと深さのある最新情報!

ネットもいいけど、雑誌ね♪  
☆皆さんのちょっとした興味を応援します☆

《ルール》

- ◇同じ雑誌のリクエストは、一人一回まで。
- ◇予算の範囲でお応えします。
- ◇続巻は、書店や公共図書館でお求めください。

③ 6月の時事の棚

Bitcoin

仮想通貨：ビットコイン

- ・「ビットコイン」って何?
- ・なぜ利用されるのか?
- ・経済社会にインパクトを与えるフィンテック (FinTech) って何?

又吉兄さんから、源さんまで  
多芸多才な芸能の面々



活字でたどる、彼らの魅力!

好きなのに、愛し方がわからなかった



「劇場」又吉直樹/新潮社

無名劇団で脚本・演出を務める他に定職を持たない永田は、彼の才能を信じる女優志望の沙希の部屋に転がり込んでいる。表現者にありがちな、プライドばかり高く身勝手という傾向は永田にもあり、自分に尽くしてくれる沙希を精神的に追いつめてしまう。沙希が愛した分だけ傷つき、壊れてしまった頃に永田は後悔する。ダメ男でも自分だけを信じてくれる女性って、愛が深いと思うけど、男性(又吉?)の幻想?ラストの涙こぼれる純愛シーンが良かった。

素直+人懐っこさが、素敵な出会いを引き寄せる☆



「杏のふむふむ」杏/筑摩書屋

素直な人柄そのままに、魅力的な文章で綴られたエッセイ。人との出会いと思い出を愛嬌あるエピソードで彩る。元祖歴史女の杏だが、きっかけは中学で読んだ幕末歴史漫画だったとか。モデル仕事でロケに行っただけで興味で歴史探訪、やがて、モデルを務める雑誌の連載コーナーで、例の歴史漫画の作者との対面が実現することとなる! 杏さんを見ていると、出会いが人を創り、またそれが新しい出会いを呼んでいる気がする☆心のリフレッシュに最適な本。



才能にあふれた天才! 彼は吹田出身

「顔-Faces」葉加瀬太郎/新潮社文庫

芸大出身ユニット“クライズラー&カンパニー”を解散しソロで活動するようになった30歳頃に書いた自伝的エッセイ。セリーヌ・ディオンとの共演を

皮切りに、エンタメの世界に一人舟を漕ぎ出そうとした頃なので、自分の音楽に対する絶対的な自信があふれかえっている。けど、才能とバイタリティーで人生を切り拓いてきた人の話は、気持ち良い!一緒に稽古に通った女の子にもてたくて必死に練習した幼少期。京都堀川高校時代の芸大入試対策の裏ワザ、ビジネスに励み過ぎて教授会で吊し上げをくらった話など、波乱万丈ネタが満載。(以上千葉)

ネガティブキャラなんかじゃなかった!

「発達障害の僕が輝ける場所を見つけられた理由」



栗原類 / KADOKAWA

8歳の時「発達障害」と診断されてから、自分の才能を生かす居場所をみつけれなかった現在に至るまでを語った作品。周囲の心無い対応で傷ついたり、受験で失敗したり、本当に色々あった中で進み続けた彼に感服する。また、将来自立できるよう子育てしてきた母親の努力にも頭が下がる。彼は全然ネガティブキャラじゃなかった。むしろポジティブキャラで元気がもたらえた!

千原ジュニアにこんな時代があったの?!



「14歳」千原ジュニア/講談社

何カ月もパジャマ暮らしの「僕」の独白で綴られるお話。現在活躍中の千原ジュニアからは想像できない引きこもり時代。幼少時から他の子どもと違うと自覚しつつも合わせることをしなかった「僕」。両親を悲しませ苦しませていることをわかりながらも口をきかない「僕」。先が見えない中で時間だけが過ぎて行く14歳の焦りが、痛いほど伝わってくる。引きこもりは、逃避じゃなくて戦いだ。

アイドル作家なんて言っちゃいけない!



「傘をもたない蟻たちは」加藤シゲアキ/KADOKAWA

アイドルグループ『NEWS』のメンバー加藤シゲアキの短編集。先に発表された他作品とは全く趣向が違う6編。題材は脱サラあり恋愛あり思春期の葛藤ありと多岐に渡り、結末にドキッとしたり鳥肌が立ったり胸の奥がじんわりしたり…。文章の構成や言葉の使い方も上手くてとにかく飽きさせない! 作者の豊かな才能と、小説への貪欲な好奇心が感じられる。今後は大いに楽しみ! 偏見を捨てて一読を! (以上 田中)

ぼあちゃんの深い愛情と生き様に拍手!

「佐賀のがばいぼあちゃん」島田洋七/徳間書店



戦後間もない昭和30年代。貧乏中の貧乏な暮らしなのになぜか笑ってしまうぼあちゃんと僕との暮らし。小一時間もあればすぐに読めてしまう長さですが、何度も読み返したくなるぼあちゃんの名言がいっぱいつまっています。「人に気づかれないのが本当の優しさ、本当の親切。」等々。豊かな暮らしの中に埋もれて、気が付かなかった本当に大切なものを教わる本…。がばい(すごい)!



こんなラブレターもらってみたい…。

「代筆屋」辻仁成/幻冬舎

名前も知らない片思いの女の子へのラブレターから、余命わずかの祖母へ送る事故死した孫からの手紙まで、代筆したことに気づかれず相手の心に深く入り込む手紙を書く売れない作家の私。彼がもっとも得意としていたのはラブレター。「すべての扉を開けることができる殺し文句など存在しない。1人1人に対して一つ一つの鍵が必要となる。これが恋文の鉄則」らしい。なんてキザで胡散臭いんだろうと思う一方、彼の書くラブレターならちょっともらってみたいくなる?

さすが! よくばりエンターテイナー!!

「いのちの車窓から」星野源/KADOKAWA



本書は当館でも定期購読している本の情報雑誌「ダ・ヴィンチ」に連載中のエッセイが単行本化されたもの。大ブレイク前からのファンの方も、最近好きになった方も、ファンでない方も、全ての人に読んでほしい等身大の星野源を感じられる1冊。普通だけど普通でない言葉の選択、独自の世界観、やっぱり彼はエンターテイナー! カバーの男の子が数字の「1」になっているのに気付きましたか? この連載が続いて「2」が早く読めますように…。 (以上 梅谷)

芸能人の文藝 いろいろ展示中

- 「働く男」, 「そして生活は続く」 星野源
- 「大泉洋エッセイ」 大泉洋
- 「ドロップ」 品川ヒロシ
- 「ヒキコモリ漂流記」 山田ルイ 53 世
- 「閃光スクランブル」 加藤シゲアキ 他多数

